

具体的な事例から学ぶ

No. 14

発行：山口県教育委員会

令和4年5月6日

～考えよう！自分のこととして～

1 テーマ「ICT機器やオンライン環境を活用する際の適切な情報管理について」

- 1人1台端末の整備やオンライン環境の充実が急速に進む中、それらを利用する中での個人情報の流出等のトラブルが発生するリスクにも留意する必要があります。
- 端末やオンライン環境を利用して校務を行う場合、小さな不注意やわずかな誤操作等が、取り返しのつかない事態につながるケースもありますので、細心の注意を払って対応しましょう。

2 考えてみましょう（どのようなリスクが考えられるでしょうか）

- (1) クラウド上にテスト対策教材をアップロードした際、()
- (2) クラウド上で生徒からアンケート回収を行った際、()
- (3) Excelの関数を使って成績データを通知表に対応させた際、()
- (4) 個人面談予定表をデータで送信した際、()
- (5) 授業で映像資料を見せようとした際、()

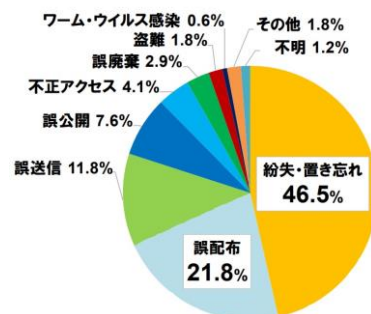
3 考えられるリスク

- (1) テスト問題もアップロードしたことに気付かないまま、翌日にテストを実施した。
- (2) 他の生徒の回答が閲覧できる設定になっていた。
- (3) Aさんの通知表にBさんの成績が入力されたことに気付かず、そのまま印刷・配付した。
- (4) 他の生徒の志望校が入力された表を送信した。
- (5) 誤って個人情報を含む資料を表示した。




4 未然防止・リスクを低減する方法等

- 紛失・置き忘れによる情報流出（46.5%）と同程度の割合で、誤配布・誤送信・誤公開・誤廃棄による個人情報漏えいが発生（44.1%）しています。

「令和2年度 学校・教育機関における個人情報漏えい事故の発生状況」(C) ISEN



- リスク低減や万一の場合の早期対応のため、データを扱う際は、以下のような対策を重ねて行いましょう。

- ・ 配付・公開前後のダブルチェック（他者チェック等）を行う 
- ・ パスワード設定や暗号化などを自動化する 
- ・ メール送付の際、上司・同僚をCC/BCCに設定する 

- 万一、個人情報漏えい等が起こった場合、速やかに管理職に報告しましょう。